

杉戸町立杉戸中学校 令和7年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎基本を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」の徹底により、授業規律の確立と定着。 朝読書の完全実施 小テストや単元テストの実施により、基礎基本の定着と家庭学習の定着を図る 個別の学力に応じた学習支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート 「授業の約束10か条」AB評価9割(ABCD 4段階評価) 朝読書の実施100% 定期テスト2週間前から朝学習の導入 CBTによる小単元テストの継続(理科) 定期テスト前に各学年で実施 各教科における個々の学習を深めさせるための研究 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の約束10か条、朝読書 達成率9割以上。 定期テスト2週間前から全学年で朝学習を実施することができた。 家庭学習の取組については、「取り組んでいる」との回答が生徒で(69.9%→67%)と、昨年より低下した。自立した学習者育成に向けた授業改善を推進しきれていないことが要因である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を見通した学びを充実させていくことで、計画的、かつ、既習事項を活用していく学びを実現させていく必要がある。県外の先進校や町内の小中学校を視察した成果を授業改善に結びつけていくために、校内研修を活性化していく。 授業中、ICTを活用する教科が多いため、バッテリーの劣化等により、学習が滞ってしまう環境である。杉戸町教育委員会とも連携して学習環境の改善を図っていく。 ICTを活用する際、情報を取捨選択する力を育成していくことが課題である。ネット上に書かれている文を単に引用するだけの段階からステップアップさせなくてはならない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の約束や朝読書など継続的な実施が安定してきている点はよいと思います。ICT活用についてもおおよそ学習のペースとして組み込まれているように思えます。機器の維持については大規模改修やリプレースの時期を予想しておくことが大事です。 家庭学習の取組がここ3年で直線的に低下していることは懸念事項です。研究派遣や授業改善をスタートさせたことは評価できます。入学生生の質の変化についても注意が必要だと思います。家庭学習、自己学習にあたってのAI利用についても方針を決めておいたほうがよいでしょう。 学力向上維持のため、多くの生徒が塾を利用しています。生徒にとって大半の時間を過ごす学校だからこそできる学びを見つけてください。
	学習指導法を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> 杉戸町授業スタンダードを基にした効果的な授業の実践 子供たちが自ら学ぶ喜びを実感できる授業への改革(三年計画の一年目) 自由進度学習の研究と実践 県学力学習状況調査の結果の分析から指導方法改善に向けた教科会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な本時の課題設定と振り返り実施100% 教科ごとに県学調の結果を分析し、課題、改善策を検討し実行する。(3年目) 「個別最適な学び」の研究を推進しつつ、「協働的な学び」の実践および振り返りを実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒一人一人にとっての最適な学びを実現すべく、授業改善の中軸を担う教員2名を静岡県御前崎市の先進校に派遣し、その成果を共有した。 			
豊かな心	を基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> めざす生徒像「自ら真剣に学ぶ生徒」「自他の人格を尊重する生徒」「健康・体力の増進に努める生徒」の育成に向けた学級経営・教科指導の推進。 「生活の約束10か条」による生活習慣の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営・教科指導の進捗状況 本校全生徒の可能性を引き出すための組織的な一貫性ある指導体制の確立 生徒アンケート 「生活の約束10か条」AB評価9割(ABCD 4段階評価) 	B	<ul style="list-style-type: none"> めざす生徒像を念頭に置いた学級経営・教科指導、諸活動における指導、支援を行った。生徒の主体性を引き出すための取組に挑戦することを全教職員と共有し、教育活動を行った。「組織としての一貫性」を保つことが課題であり、次年度以降も取り組んでいきたい。 新規不登校生徒数が減少している。校内教育支援センター「Aルーム」の活用により、不登校生徒を中心に多様な生徒に対してよりきめ細かに支援できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を引き出す教育活動となっているかとの視点で、学級経営・教科指導を見直すことが必要である。これまでのキャリアの中で築いてきた教員としての指導観を、思い切って変える勇気を持つことを共有化するために研修を充実させていくことが課題である。 「不登校の予防」、「現在不登校である生徒への支援」を徹底していく必要がある。 組織として一貫した手厚い支援を実現するために、学級による、さらには、学年による支援に差がないようにしていくことが最大課題である。 定期的に教育相談部会を開き、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーから助言・指導いただきながら、支援の手から取り残されている生徒はいないか検証していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内教育支援センター「Aルーム」との連携の成果が出ている。更に全校体制での支援を。 新規不登校の減少は「Aルーム」の効果でしょうか。クラスメイト意識の醸成や研修、また予防的な方策に取り組み始めたことは評価できます。 学級経営や指導に関して組織としての一貫性に尽力し、意識改革・意識共有を図る研修や相談会などの取組も評価できます。改革に集ることなく、ワークライフバランスにも配慮して進めてください。 今年度は、目指す生徒像として学校教育目標と連結した知徳体の第1生徒像があげられています。これが根幹として先生・生徒・保護者がより深く共有されるとよいと思います。 誰一人同じ生徒はいません。そんな生徒や保護者の対応に様々な仮面を被る先生方。一方で、生徒の本音見えづらくないままか。大人の仮面を外し本音で向き合った時にこそ子供の心は動くのでは。かっこいいは外見でなく中身です。子供は大人を、生徒は先生を成長させてくれるはずです。
	生徒の高め専重意識	<ul style="list-style-type: none"> 誰一人取り残さない学年・学級経営 不登校生徒への支援の充実 欠席者も学級の一員であることを生徒に示し続ける学級経営方針の徹底 さわやか相談員による1学年生徒全員面談 支援籍学習の実施による権威覚の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談部会を核とした不登校生徒への支援の充実 校内研修の充実(特別支援教育の専門性向上および発達支持的生徒指導の徹底) いじめのない学校生活を送るためのアンケートの毎月実施 相談室、Aルームとの連携 スマイル賞授与者の社会的評価の向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> 仲間との協力やお互いに気遣う気持ちをもって学校生活を送っているか。R7:91% (昨年度から低下) 保護者R6:95.6%→R7:91% (昨年度から低下) 生徒R6:97.8%→R7:97% (昨年度から低下) 			
健やかな体	を健康意識と体力	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが安心して学ぶための施設・設備の点検 登下校時の交通ルール遵守 自他の命を大切にする安全指導の充実 PTAによる安全指導 PTAと連携した緑化整備 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検の実施 登下校時の交通事故ゼロ 自転車安全教室(年3回) 教職員による下校指導(年14回) PTAとの連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校のマナーについては、特に自転車通学者の安全指導が課題である。地域からいただくご指摘は教育改善点と受け止め、安全担当を中心として全職員による、継続的な指導を行っていく。 PTAとも連携を取りながら、安全指導の重点化について協力をお願いしていく。 校内の環境整備についても、PTAにご協力いただきながら、生徒の活動が見えない樹木の伐採や草刈り等を行い、通わせて安心な学校づくりを進めた。 保健体育の授業にフラッグフットボールを取り入れ、生徒の主体性を引き出しつつ、性別や運動の得意・不得意に関わらず、楽しみながら基礎体力を向上させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車安全教室を年3回実施したものの、自転車の並列運転や一時不停止が見られた。交通事故を自分事として捉えさせていくための指導法については再考の余地がある。 前年度までにPTAのアンケートで記入いただいた危険箇所を中心に交通指導を行っていくことが必要である。 毎朝の学年職員による立哨指導を通年で実施した。 う歯治療率45・9% (12月末現在)。例年より低い数値となった。 3学期も継続して指導する。 部活動は町、及び学校の基本方針に則り、全ての部活で徹底することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の一時停止、並列運転等、学校の登下校指導の継続、そして保護者一人ひとりの協力が求められるよう適時な情報発信の継続、交通事故を自分事として捉えさせていくためのある程度インパクトのある具体的事例の活用指導を。 緑化整備・環境整備がPTAの力を得て進められたことはよかったですと思います。PTAの組織改革の効果の表れかと思えます。 安全指導・健康指導については継続的に行われておりよいと思います。生徒によるハザードマップの作成やICタグによる見守りなどの事例があるようです。 部活動は今年度も好成績で、自主的・集中的な活動が身についてきたかと思えます。 生徒の登下校については外部から苦情がよくと聞きますが、交通ルールを守るべきは子供だけでなく大人もです。命の危険を避け、生徒自身の身の安全を守る行動も教えてください。
	を健康意識と体力	<ul style="list-style-type: none"> 歯磨き指導や治療勧告等う歯治療の推奨 基本的な生活習慣の習得指導。(就寝起床時刻、朝食の摂取等) 体力向上及び健康教育 主体的な活動に基づく部活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> う歯治療率90% 体育や部活動における基礎体力の向上 「楽しみながら考え、活動する授業」での成果と課題の検証 生徒一人一人の主体性を引き出す活動 	B				
学校独自	を推進する連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学年だより、学級だよりの発行、HPの定期更新による情報発信 地域の人材を活用した教育活動の実施 PTA活動の活動内容の精選 不登校対応、健全育成における関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行とすぐるの毎日更新(保護者アンケートの情報発信で3.7以上) キャリア教育における地域人材の活用 「生徒にとっても見えるPTA活動」の実施 関係機関との行動連携の構築 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種便りの発行と毎日のHP更新は、保護者で(93.6%→90.5%)と満足度が低下した。 メール配信システム「すぐる」にて、毎日、生徒の学習や学校生活の様子を保護者へ伝えることができた。 キャリア教育においては、学校運営協議会委員に講師を依頼し、3年生のに向けての講演を行った。 不登校支援においては、杉戸町の子育て支援課や適応指導教室と連携を図ることで、学校だけでは行き届かない生徒への支援を手厚いものにした。 校内環境美化については、環境委員会の生徒の意見に基づいて、PTAと環境整備ポイントを決める取組を試験的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の職場体験学習(2学期実施)と校外学習(3学期実施)をキャリア教育の視点から学びをより深めていくことが求められる。多面的な視野を持たせながら、自分の生き方を見つめさせることで、3年生での修学旅行や進路学習、立志式の教育効果をさらに高めたい。 PTA活動は組織の見直しも成功し、概ね順調と捉えた。また、除草作業において地域の方(シルバー人材センター)にも協力を得られ環境美化に繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、メール配信による頻度の高い情報提供があり、流れや動きが分かりやすかった。 その他の意見として、運営協議会委員をグロブスター活用継続が進められればと思います。 学校からの発信はよくされていると思います。保護者の評価がやや下がりましたが9割は満足です。内容的な点での希望などの意見をPTAなどから聴取するとよいかもしれません。HPの情報としては大会結果や学年次予定などは情報が古く改善の余地があります。 PTAとの連携で環境整備を進める上で、生徒の意見も取り入れる試みをしたことは評価できます。生徒の自主的活動や個人学習にもつながると思いますので進めていただきたいです。 来年度以降もPTAと協力いただき、学校に関わる全ての人が過ごしやすい環境を整えてください。